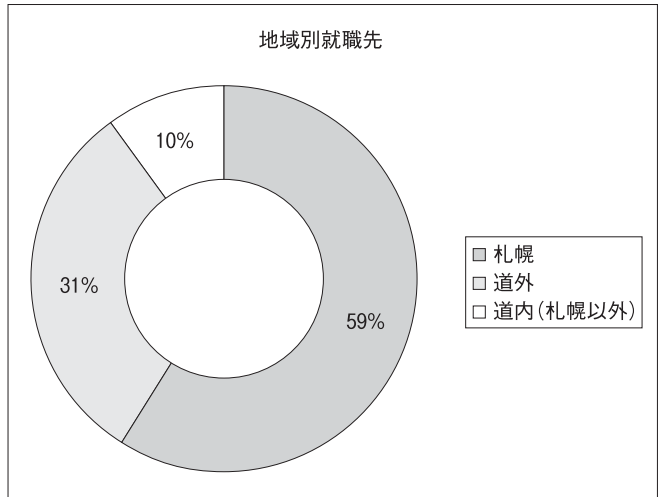


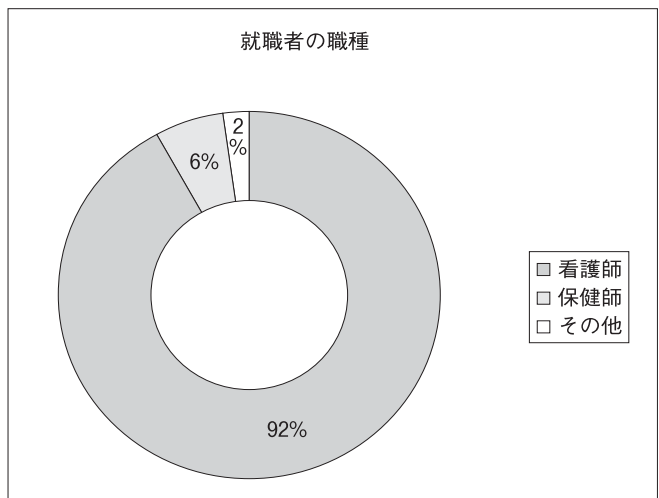
② 地域別就職先

地域別就職先	人
札幌	49
道外	26
道内（札幌以外）	8
合 計	83



③ 就職者の職種

就職者の職種	人
看護師	76
保健師	5
その他	2
合 計	83



5 大学院、専攻科設置認可関係

1) 大学院（修士課程）

ア) 大学院の設置の趣旨・目的

本学では、デザインと看護に共通する「人間重視」の理念のもと、有為な人材の育成に向けた教育・研究を行ってきた。

現代社会は、科学技術の発展や社会構造の変化、さらには地球規模で進展するボーダレス化とともに複雑化の度合いを深めており、人々の生活にさまざまな課題を生じさせている。多様化する社会のさまざまな課題を解決するためには、より高度な学識の涵養を通じて、専門的知識に裏打ちされた判断力や実践力、マネジメント能力を身につけた人材の育成が必要となっている。

これらの考え方により、本学ではデザインと看護の学部での教育・研究を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

イ) 設置認可申請及び開設準備

大学院修士課程は、デザイン学部及び看護学部の第一期生の卒業時期に合わせて平成22年4月に開設することとする大学院基本計画に基づき、平成21年5月に「札幌市立大学大学院設置認可申請書」を文部科学省に提出し、10月に同省から設置認可を得た。

設置認可を受け、平成22年4月から始まる大学院教育を円滑かつ効果的に行うため、設置認可後速やかに授業担当教員に対する説明会を開催し、本大学院の設置の趣旨や目的、育成する人材像等について認識を共有するよう努めた。また、大学院の具体的な運営方法について、設置認可前の早い時期から学内で検討しており、学長、副学長、研究科長予定者等で構成する学内委員会のもと協議・検討を重ねてきた。さらに、各研究科に特化した課題等を検討するため、それぞれの研究科の授業担当教員で組織する「研究科開設準備会議」を設け、研究科ごとの検討事項を洗い出し、教学・施設面での具体的な運営方法や学内規程の整備、説明会等の広報活動の実施、学生募集要領の決定及び入学試験の実施などに取り組み、第一期入学生の受け入れに向けて十分な準備を整えた。

ウ) 大学院用施設・設備等の整備

研究科の研究・教育目的を達成するために必要となる施設・設備は、両キャンパスの既存施設・設備を学部と転共用するほか、大学院棟として芸術の森キャンパス及び桑園キャンパスそれぞれに新校舎を設けた。新校舎は、芸術の森キャンパスは、アトリエやプレゼンテーションルームなどを備えた鉄筋コンクリート4階建て（約1,000㎡）とし、桑園キャンパスは、シミュレーション・ラボやシールドルームなどを備えた鉄筋コンクリート5階建て（約2,500㎡）の規模とした。

2) 専攻科（助産学専攻科）

ア) 専攻科の設置の趣旨・目的

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、更に助産師の需要が増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談指導など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。これらの背景から、より高度な能力を持った助産師の養成が急務であり、本学に助産学専攻科を設置して助産師の養成を行うこととした。

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的として、市民や地域住民が安心して子どもを出産し、育てることのできる環境づくりを側面から支援することを目指し設置することとした。

イ) 助産師学校指定申請及び開設準備

助産学専攻科は、平成21年10月に「札幌市立大学助産師学校指定申請書」を北海道及び文部科学省に提出し、12月に文部科学省から指定通知を得た。

指定申請を行う以前から、学内で助産学専攻科の設置に向けた検討を開始しており、指定申請後は、看護学部内に「助産学専攻科開設準備会議」を設け、教学・施設面での具体的な運営方法や学生募集要領及び入学試験の実施などについて検討を行った。また、指定通知を受けた後は、説明会を実施するなどにより第一期入学生の受け入れに向けて十分な準備を整えた。

ウ) 専攻科用施設・設備等の整備

専攻科の教育目的を達成するために必要となる施設・設備は、桑園キャンパスの既存施設・設備を学部と転共用するほか、大学院棟に整備したシミュレーション・ラボの一部を共用することとし、授業に使用する備品を新たに整備した。